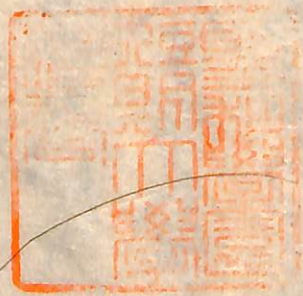


911.3
18

龍溪先生全集

全



11

[The page contains several lines of handwritten text in cursive script, which appears to be bleed-through from the reverse side of the document. The ink is dark and the handwriting is fluid.]

時時身之衣

むづめはもどつゝとん様の世とめでつる御所目せり
 あらむやよあれ子飯が力をもてく神の心も地おれども
 だちをいれたるなごうわあふむあつてもきかぬまぶる人ぞ
 おもひにたるとおもわれぬ垂敷総角とてあはれにさるもの
 まもとの志もあつてもとるにうつりゆくといひ強ひて世集の
 うらみの心も入るへと相撲長とて名にけりやあむ

四力弘燈

久政二子

製記

俳諧歌相撲長

撰者四方歌壇

春の部

波那細

年内立春

唐土へちよりハちと近しく冬へ来ずく春へ来ぬらん 四

四

裏微如花三

三年今二見う浦のうきうれきよき所門松の柱連

春秋

裏微加花二

いそぐ現象は著々と進みつつある。また来々々衆

駿河吉原
裳

裳
顏

裏微

冬はづる解る氷をまきの事く落合ふらん山川乃る

千賀江

年の内は書とわくをばせしむるむとわくをせん

目
積

目
妙

越女
とある喜よんくせまくる年のうちとてまゐるひまな

全

波那細櫻通愛

笑しく仕舞も出来ぬ水面鏡をうつけあへる喜八事より案

春秋

裏微加花二

は、*Chlorophyceae* なる藻類である。

有丈

目妙

水と泥をくみ出す車升乃ちを海に棄てて其のくみ上人

真廣

立春

立春

若水

試筆

早春

春

鶏がく吾妻河に春水とく都のつとをふなるを
 春 幸手
 甲斐市川 真河
 越後針井 木守
 下総古河 雪也
 安房館山 真秀
 相模依智 登志久
 新庄 繁樹
 諏方 巢垣
 松秀
 石網
 前橋 貞州
 一ノ関 長道
 打とけくまをわさるやひびきよむく 西よ雪乃下あ
 橋 住
 安房小町 此 磨
 東のりのわたりまの古きや江戸常よあむ九重

目妙如花一

目妙

梅景 尺長
 中 牆
 佐渡相川 長成
 小野宮 橋氏
 閑宿 鶯歌
 千 穎
 荷吉田 錢丸
 安房成川 近
 一ノ関 博覧
 金 親覧
 富津 有安
 青梅 喜代住
 子日 歌かく千代も種人もよく海を祢の目れ松を燈へし引

白馬節會

氷解

子日

水戸 高濱 葉 立

五百曆

萬象
隅成

上總菱田
音美

川越
高
湊

前 栗
喬 潛 橘

左 前
原 暗
部

雪郵

豆

春
下毛鍋掛

水戸時

全
休民
則

文
世

御座

加保

月
景

復
奏

全

菱田 最高

讀岐九龜

因幡鳥取

山
一月
帝

三河坂崎
真也

下毛三谷
宵寐

梧枝

甲
庚

波那細

裏微加花三

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

伊九

綾羽

空寐

春則

真晴

春則

仙臺

御代風

水戸

系女

葉守

越後針村

唐崎

大和新庄

富佐子

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

花の世にありてはさきとて花の世にありてはさきとて

御風

安房小町

琴富貴

河富高文政

真文

安房館山

歌雄

駿河府中

月好

真海

目積

催馬

花成

佐原

音

横手此ちしむ漢は帆とてく世といふさうなるの事
 まづさとしし柳やうん露の月には影をうつさひらのる
 きれはよ何やうゆきもくま多くの人は影乃種うと
 こころいとも月日星をもけてゆくものゝわたりさうなせ
 る松やうりうりこころひらのつらさをいとみめぬ
 梅よりうきものれがうたふハ確かななりあそびとぬ
 雪恥の布にとまりくきものそげく鳴きけ面をさうに
 春後はゆるるあざりの梅よりいづなの柳はきれうと
 咲く花へはもひぬ程は大きくと庭はあそび鳴きの声
 え日の雅楽のともし耳をかくやうぐさのうごひれの声
 きれは月を白くしきよりうきものをへくき笠乃奥
 楊柳をたるせ柳はうきものもく山陽とてその庭のうごひれ
 波那相川
 目妙
 仙臺 近道 會安 折眉 栗橋 名古屋 長門 館山 土徳下糸
 真鶴 静雄 袖古 真滝 人丸 足澄 則道
 千瀬 潮 李 元 佐渡相川 山形 月雄

[illegible]

那福をまゐるともやまゐるゝゝゝ燈うつ神燈の梅 真久

梅の風吹くあひのゝゝゝいねむむもの功德なるん 秋穂

花などもの後めはれぬもせく梅の客は影者もあり 仙臺

唐衣袖をうつゝゝゝあやめこの級は降し梅が島 御代長

梅が島は昔とてゝゝゝ人ぬきとてゝゝゝ蒼なるもむ 全

七曲は曲る市燈様のごとくゝゝゝ人のまひる梅が島 全

梅つぼの中は餘りゝ梅がのこゝゝゝ梅はれゝゝゝ 菜成

燈さるゝゝゝのゝゝゝは神よとむあひらゝゝゝ此の梅が 前橋

ゆゝゝゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 左貫

溜ひのゝゝゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 幸雄

鄙人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 丘守

あゝゝゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 甲斐今井

梅はいつ梅もあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 全

梅の花をよめるゝゝゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 跡人

日妙如花一

夢の燈ふゝゝゝを梓うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 仙臺

梅が島ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 笠間

うづひのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 三河吉田

まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 駿府

梅の花ちりやたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 弘道

紅井は梅の登るうづひのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 佐渡相川

弓の如きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 全

咲くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 真竹

あひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 上徳富津

是る人のあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 長崎

梅が島は昔とてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 讀岐丸龜

さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 仙臺

火ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 筆丸

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 草加

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 早丸

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 振吉

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さそひぬる風のすぬりふこわうつゝあへのなりてゆく梅ぐ
 ちを掃く眼を花けとやふ風はあんとの歌と越え梅が丘
 池水とろくろくさげバ子子のかもよくむらり足踏め梅が枝
 陸ほどこわけける家とあひきそあゆみとうつと梅の影風
 ときよといふのとんと一そまき種らんできく梅乃卜枝
 梅ぐを風のよりきわくありくあら花あき里も皆あかりー
 あゆみをば知らぬ風はあたまれてこそあがりやと梅れあまん
 むくれう枝はそれのせくとそそのあふう風の梅が丘
 まくれバ水のあとと物うはり星うつりくる池のべろ梅
 まことの糸はほぐれー井底の梅風はまつせくあゆみらん
 はやくさを集やつくる夜半の程はまた昔どくれ花その梅が
 まきの花れ月はおとに寒の梅ハ補之のころの画とぞとてえ
 山をたききと移しもむらりく喜ハけふ風乃梅が丘
 都波津はさくらとくの初お屋さやぶ六まんひくけされ

気仙沼

	歌	桃	全	鉾田	鹿教湯	諏方	全	全	新庄	前橋	真	詠方	津島	安房館山	筑前博多
零	人垣州	李	長喜	住人	千	鹿	里	喜	全	壽	真	方	巢	常	里

わさうわんどう室よかきとあき丁みうらううな夜咲の枝
裏微 くれぬの梅乃蒼と夢つそぐりる雛の枕なりま
波那細櫻通愛 ま月よよあれどなびくま柳のめあてハ何うより不あり
波那細 吹雪の夢を枝よ影きと柳や風乃鏡なりま
裏微如花三 ある時を枝めかくさぬ雪とぬのあは埋るまき一のま柳
裏微如花三 桜さく少一木れま柳を夢よ花やく烟とどるま
全 柳もようこまけせんま柳の枝もどれど危の井あてま
全 まどりをを深くありけれ行より風乃柳の眉乃ま柳
裏微如花三 ま柳ハ女なればやきの弱く病の花あやまふ枝ま柳
裏微 一柳ハ朝より柳の果とくけく風よあびうぬ青柳の糸
裏微 裏微ま眉とあへば柳どよまくうとまどる危のま柳
全 まあをなるありよまをもつまあまふけぬ眉のま柳
全 きぬうまはゆる柳を枝の男がさうま物と飛ぐあふべき
岩城 まま柳はまけく二柳はあもまうれとありまやうま
行徳 岩城 仲 笑 雄 津 波 全 真 行 佐渡 月 山 諸 真 春 桑折 長 道 一 関 枝 重

早蕨

信濃 別所 愛歌人 丸
 丁田 基 成 丸
 甲府 壺 成 丸
 裏 博 覧
 相模 博 覧
 里 博 覧
 方 仕
 御代長
 真 芳
 鹿 道
 下 總
 二
 菊 人
 再 葉
 水戸

春月

田 崔 弟
 真 郡
 親 覧
 織 方
 裳 顔
 竹 光
 大 田 原
 片 倉
 常
 繁 樹
 歌 雄
 駿 雄
 駿 雄
 直 古

春曙

報

[illegible]

目妙
其むびのふとゆよめをまへるやわあときくはきり
裏微
つゝのうにあらけ極めざれありのてきさとしあるがきり花
成那細
うづゝなあひあゝし花庭あつせんよりハ風は花をせよ
一、関
名古屋
鬼
持
道影

[illegible]

[illegible]

初風を一時ちて、誘ふ鬼子、炎餅

鶯鴒ちよふ風よどろくハ鳥りよふ知子のぬえ

さうさふハ一平さふろとわどまをうて役中ぞゆく

[illegible]

多の申へんちをもちろの波よりふね

卷之八の夜この夜とうちをまねてくたけをてた

蓮葉のうき那ハハハ寺の堂北よりゆくがを跨ぐといふ

中里ハ益多ヨリ馬方客人と云ふ奴ガ續ク馳走アリキ

つづは花をまきさるふもびよわらうよりいほぞしきたれ

辻巻に飾は櫛の巻とむづりて井の巻や
鈴巻とちぢん

[illegible]

うき月を花梅をよそとやの霞に雲のくさる

此は六世親の節節なり衆よりてもおられざる

落花

あふが、出さうとすの、つゝありぞ、あまよ、からねよこより一徳のそ
一枚をえりて、ねむるを、えんともづ、たのみの、くきとどとる

氣

裏桜如花三
雲の巻捲りて水の勢ゆるぎの川やまゝと水々ん

風のあたりや木の梢のちりほふゆきうつくしの雪・ちみうも

裏微
ちまふは枝の條より日のゆく指さやと一花乃夕立

名所をちよ屋との標ちうより追悔をよとすもあつた

風の非風八雲のくちくちをきくはくちくちをきくは

目加花
之松
室とあまのうら
凡そ宿を松の枝をさすう

目妙
あゝあゝ津の心屋はちとわづかきつたや席の屋さう

わが世をまゐるうつ樂やうと替ふ凡のあゝよ

裏徳が世三
まのそよつめと重の入物りあふき名をさるる乃是
更次口三三
訴

裏カキ葉ハつむ人の心とてあそびてゆくやうな今のやうに
裏改

夢の維新をさげすむを厭うてつゝの筆をふる松

神祇よかりの世爰乃ちまをまうにもあそむるを

野遊

花の波まゝのゆめわれをうづりやせん萬葉の橋

桃 燕 堇 蛙

通日

珠

1917-18-1918-19-1919-20-1920-21-1921-22-1922-23-1923-24-1924-25-1925-26-1926-27-1927-28-1928-29-1929-30-1930-31-1931-32-1932-33-1933-34-1934-35-1935-36-1936-37-1937-38-1938-39-1939-40-1940-41-1941-42-1942-43-1943-44-1944-45-1945-46-1946-47-1947-48-1948-49-1949-50-1950-51-1951-52-1952-53-1953-54-1954-55-1955-56-1956-57-1957-58-1958-59-1959-60-1960-61-1961-62-1962-63-1963-64-1964-65-1965-66-1966-67-1967-68-1968-69-1969-70-1970-71-1971-72-1972-73-1973-74-1974-75-1975-76-1976-77-1977-78-1978-79-1979-80-1980-81-1981-82-1982-83-1983-84-1984-85-1985-86-1986-87-1987-88-1988-89-1989-90-1990-91-1991-92-1992-93-1993-94-1994-95-1995-96-1996-97-1997-98-1998-99-1999-00-2000-01-2001-02-2002-03-2003-04-2004-05-2005-06-2006-07-2007-08-2008-09-2009-10-2010-11-2011-12-2012-13-2013-14-2014-15-2015-16-2016-17-2017-18-2018-19-2019-20-2020-21-2021-22-2022-23-2023-24-2024-25-2025-26-2026-27-2027-28-2028-29-2029-30-2030-31-2031-32-2032-33-2033-34-2034-35-2035-36-2036-37-2037-38-2038-39-2039-40-2040-41-2041-42-2042-43-2043-44-2044-45-2045-46-2046-47-2047-48-2048-49-2049-50-2050-51-2051-52-2052-53-2053-54-2054-55-2055-56-2056-57-2057-58-2058-59-2059-60-2060-61-2061-62-2062-63-2063-64-2064-65-2065-66-2066-67-2067-68-2068-69-2069-70-2070-71-2071-72-2072-73-2073-74-2074-75-2075-76-2076-77-2077-78-2078-79-2079-80-2080-81-2081-82-2082-83-2083-84-2084-85-2085-86-2086-87-2087-88-2088-89-2089-90-2090-91-2091-92-2092-93-2093-94-2094-95-2095-96-2096-97-2097-98-2098-99-2099-00-2100-01-2101-02-2102-03-2103-04-2104-05-2105-06-2106-07-2107-08-2108-09-2109-10-2110-11-2111-12-2112-13-2113-14-2114-15-2115-16-2116-17-2117-18-2118-19-2119-20-2120-21-2121-22-2122-23-2123-24-2124-25-2125-26-2126-27-2127-28-2128-29-2129-30-2130-31-2131-32-2132-33-2133-34-2134-35-2135-36-2136-37-2137-38-2138-39-2139-40-2140-41-2141-42-2142-43-2143-44-2144-45-2145-46-2146-47-2147-48-2148-49-2149-50-2150-51-2151-52-2152-53-2153-54-2154-55-2155-56-2156-57-2157-58-2158-59-2159-60-2160-61-2161-62-2162-63-2163-64-2164-65-2165-66-2166-67-2167-68-2168-69-2169-70-2170-71-2171-72-2172-73-2173-74-2174-75-2175-76-2176-77-2177-78-2178-79-2179-80-2180-81-2181-82-2182-83-2183-84-2184-85-2185-86-2186-87-2187-88-2188-89-2189-90-2190-91-2191-92-2192-93-2193-94-2194-95-2195-96-2196-97-2197-98-2198-99-2199-00-2200-01-2201-02-2202-03-2203-04-2204-05-2205-06-2206-07-2207-08-2208-09-2209-10-2210-11-2211-12-2212-13-2213-14-2214-15-2215-16-2216-17-2217-18-2218-19-2219-20-2220-21-2221-22-2222-23-2223-24-2224-25-2225-26-2226-27-2227-28-2228-29-2229-30-2230-31-2231-32-2232-33-2233-34-2234-35-2235-36-2236-37-2237-38-2238-39-2239-40-2240-41-2241-42-2242-43-2243-44-2244-45-2245-46-2246-47-2247-48-2248-49-2249-50-2250-51-2251-52-2252-53-2253-54-2254-55-2255-56-2256-57-2257-58-2258-59-2259-60-2260-61-2261-62-2262-63-2263-64-2264-65-2265-66-2266-67-2267-68-2268-69-2269-70-2270-71-2271-72-2272-73-2273-74-2274-75-2275-76-2276-77-2277-78-2278-79-2279-80-2280-81-2281-82-2282-83-2283-84-2284-85-2285-86-2286-87-2287-88-2288-89-2289-90-2290-91-2291-92-2292-93-2293-94-2294-95-2295-96-2296-97-2297-98-2298-99-2299-00-2300-01-2301-02-2302-03-2303-04-2304-05-2305-06-2306-07-2307-08-2308-09-2309-10-2310-11-2311-12-2312-13-2313-14-2314-15-2315-16-2316-17-2317-18-2318-19-2319-20-2320-21-2321-22-2322-23-2323-24-2324-25-2325-26-2326-27-2327-28-2328-29-2329-30-2330-31-2331-32-2332-33-2333-34-2334-35-2335-36-2336-37-2337-38-2338-39-2339-40-2340-41-2341-42-2342-43-2343-44-2344-45-2345-46-2346-47-2347-48-2348-49-2349-50-2350-51-2351-52-2352-53-2353-54-2354-55-2355-56-2356-57-2357-58-2358-59-2359-60-2360-61-2361-62-2362-63-2363-64-2364-65-2365-66-2366-67-2367-68-2368-69-2369-70-2370-71-2371-72-2372-73-2373-74-2374-75-2375-76-2376-77-2377-78-2378-79-2379-80-2380-81-2381-82-2382-83-2383-84-2384-85-2385-86-2386-87-2387-88-2388-89-2389-90-2390-91-2391-92-2392-93-2393-94-2394-95-2395-96-2396-97-2397-98-2398-99-2399-00-2400-01-2401-02-2402-03-2403-04-2404-05-2405-06-2406-07-2407-08-2408-09-2409-10-2410-11-2411-12-2412-13-2413-14-2414-15-2415-16-2416-17-2417-18-2418-19-2419-20-2420-21-2421-22-2422-23-2423-24-2424-25-2425-26-2426-27-2427-28-2428-2

三ノ宮 大正二

三ノ宮 大正二

四初 漢平陽太守張武卿公

Handwritten signature

Robert L. M. ...

[Faint handwritten notes at the bottom of the page]

裏微加花三

東微

[illegible][illegible]

1850
 1851
 1852
 1853
 1854
 1855
 1856
 1857
 1858
 1859
 1860
 1861
 1862
 1863
 1864
 1865
 1866
 1867
 1868
 1869
 1870
 1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900
 1901
 1902
 1903
 1904
 1905
 1906
 1907
 1908
 1909
 1910
 1911
 1912
 1913
 1914
 1915
 1916
 1917
 1918
 1919
 1920
 1921
 1922
 1923
 1924
 1925
 1926
 1927
 1928
 1929
 1930
 1931
 1932
 1933
 1934
 1935
 1936
 1937
 1938
 1939
 1940
 1941
 1942
 1943
 1944
 1945
 1946
 1947
 1948
 1949
 1950
 1951
 1952
 1953
 1954
 1955
 1956
 1957
 1958
 1959
 1960
 1961
 1962
 1963
 1964
 1965
 1966
 1967
 1968
 1969
 1970
 1971
 1972
 1973
 1974
 1975
 1976
 1977
 1978
 1979
 1980
 1981
 1982
 1983
 1984
 1985
 1986
 1987
 1988
 1989
 1990
 1991
 1992
 1993
 1994
 1995
 1996
 1997
 1998
 1999
 2000
 2001
 2002
 2003
 2004
 2005
 2006
 2007
 2008
 2009
 2010
 2011
 2012
 2013
 2014
 2015
 2016
 2017
 2018
 2019
 2020
 2021
 2022
 2023
 2024
 2025
 2026
 2027
 2028
 2029
 2030
 2031
 2032
 2033
 2034
 2035
 2036
 2037
 2038
 2039
 2040
 2041
 2042
 2043
 2044
 2045
 2046
 2047
 2048
 2049
 2050
 2051
 2052
 2053
 2054
 2055
 2056
 2057
 2058
 2059
 2060
 2061
 2062
 2063
 2064
 2065
 2066
 2067
 2068
 2069
 2070
 2071
 2072
 2073
 2074
 2075
 2076
 2077
 2078
 2079
 2080
 2081
 2082
 2083
 2084
 2085
 2086
 2087
 2088
 2089
 2090
 2091
 2092
 2093
 2094
 2095
 2096
 2097
 2098
 2099
 2100
 2101
 2102
 2103
 2104
 2105
 2106
 2107
 2108
 2109
 2110
 2111
 2112
 2113
 2114
 2115
 2116
 2117
 2118
 2119
 2120
 2121
 2122
 2123
 2124
 2125
 2126
 2127
 2128
 2129
 2130
 2131
 2132
 2133
 2134
 2135
 2136
 2137
 2138
 2139
 2140
 2141
 2142
 2143
 2144
 2145
 2146
 2147
 2148
 2149
 2150
 2151
 2152
 2153
 2154
 2155
 2156
 2157
 2158
 2159
 2160
 2161
 2162
 2163
 2164
 2165
 2166
 2167
 2168
 2169
 2170
 2171
 2172
 2173
 2174
 2175
 2176
 2177
 2178
 2179
 2180
 2181
 2182
 2183
 2184
 2185
 2186
 2187
 2188
 2189
 2190
 2191
 2192
 2193
 2194
 2195
 2196
 2197
 2198
 2199
 2200
 2201
 2202
 2203
 2204
 2205
 2206
 2207
 2208
 2209
 2210
 2211
 2212
 2213
 2214
 2215
 2216
 2217
 2218
 2219
 2220
 2221
 2222
 2223
 2224
 2225
 2226
 2227
 2228
 2229
 2230
 2231
 2232
 2233
 2234
 2235
 2236
 2237
 2238
 2239
 2240
 2241
 2242
 2243
 2244
 2245
 2246
 2247
 2248
 2249
 2250
 2251
 2252
 2253
 2254
 2255
 2256
 2257
 2258
 2259
 2260
 2261
 2262
 2263
 2264
 2265
 2266
 2267
 2268
 2269
 2270
 2271
 2272
 2273
 2274
 2275
 2276
 2277
 2278
 2279
 2280
 2281
 2282
 2283
 2284
 2285
 2286
 2287
 2288
 2289
 2290
 2291
 2292
 2293
 2294
 2295
 2296
 2297
 2298
 2299
 2300
 2301
 2302
 2303
 2304

此乃... (faint handwritten text)

3. The first of these is the fact that the *total* number of people in the world is increasing at a rapid rate.

२०३१ ७९ मी ६५ इंच लंबाई ४८ इंच चौड़ाई ११ इंच गहराई

老翁のいふ歌は、*わがこころのうた*。

04

物、外に之を以て其の爲めに用ひたるものあり

11. The first part of the paper is devoted to the study of the asymptotic behavior of the solutions of the system (1) as $t \rightarrow \infty$. It is shown that the solutions of the system (1) are bounded and tend to zero as $t \rightarrow \infty$ if the matrix A is stable. The second part of the paper is devoted to the study of the asymptotic behavior of the solutions of the system (1) as $t \rightarrow \infty$ if the matrix A is not stable. It is shown that the solutions of the system (1) are bounded and tend to zero as $t \rightarrow \infty$ if the matrix A is not stable and the matrix B is positive definite.

東坡先生集卷之四

228 卷之八 詩集

陳仲良

永豐縣志卷之四

3rd Oct 1961

文庫
 下
 上は帖の写本に依るものなり
 續

此係在...
...

[illegible]

自 1949 年 10 月 1 日 起 至 1950 年 12 月 31 日 止

[illegible]

袁枚如虎二
小園吟
袁枚如虎二

[illegible]

Adm. Com. of the U.S. Army

001

苗代

春田

躑躅

杜若 款冬

目妙

まの田をうせむ性

春則

角力多る

實則

山

此磨

乱藻

真秀

世

三

ま

恒

井

古

性

丸

苗代

真

種

綾

ま

浦

波

離

か

四

角

真

ま

砂

春則

實則

此磨

真秀

三

恒

古

丸

真

綾

浦

離

四

真

砂

任

道

和

離

子

盛

真

告

素

真

技

愛

道

道

夏

海

道

春好

古河 難歌兒

芳野 夏樹

播磨 兼井

全

長根

村友 文

小曾戸

大良

諸波九龍

桑村 主

相 然

芳野 磨

駿府 直

健雄

登志久

相 海

行徳 照

宇 波

佐渡相川

真 菊

真 清

愛 滝

大坂 垣

真 船

敦賀 秀

下 蔭

石 綱 枝

春好

古河

難歌兒

芳野

夏樹

播磨

兼井

全

長根

村友

文

小曾戸

大良

諸波九龍

桑村

主

相

然

芳野

磨

駿府

直

健雄

登志久

相

海

行徳

照

健雄

登志久

相

海

行徳

宇

波

佐渡相川

真

菊

真

清

愛

滝

大坂

垣

真

船

敦賀

秀

下

蔭

石

綱

枝

百

枝

枝

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

首夏

夏の部

播磨守野

艶持

景起

武光

佐渡相川

田實

糸頼

青見

桑名

孤

荒井

兼涌

目積

奥成

吉原

裳顔

伊丸

英賀

更衣

遅櫻

残花

餘花

新樹

波那細

目妙

うづりく人の心を夏もくも落くもく列やまのり

真葛

陀柱

相馬

玉丸

諸實

桑名

川

梅唐

鹿橋

小玉

玉樹

友足

方住

十字街

山目

珉

幹長

真名井

新樹

目妙

新樹

卯花

裏微如花二

高畑 千代

裏微

目抄

歌道

目抄

和樽

目抄

真鶴

目抄

杉盛

目抄

全

目抄

下毛亦起

目抄

見

時鳥

目抄

真酒

目抄

飄芭

目抄

千頼

目抄

早丸

目抄

川常

目抄

真春

目抄

登建

裏微如花二

教實 半月

目抄

真石

目抄

一馬

目抄

伊佐子

目抄

葉守

目抄

根春

目抄

真哉

目抄

素顔

目抄

永言

目抄

掛穂

目抄

比左志

目抄

諸實

目抄

高行

目抄

真風

目抄

山部

目抄

真風

橘

早苗

端午

菖蒲

五月雨

被那細

ついでとてなりてあけ橘を昔をよみれば社のまどをける
ほろろとて橘の葉をたはねる橘のまどを社をよめる

目妙

裏微

裏微

目妙

目妙

目妙

裏微

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

目妙

水戸

駿府

館山

青森

高行

豊持

米積

駒主

真枝

喜可寿

館林

白井

純繩

伊丸

根春

秀雄

真秀

高行

豊持

米積

駒主

真枝

喜可寿

館林

白井

純繩

伊丸

上徳芳野

奥郡山

山住

男也

系女

真葛

柔折

片倉

新庄

深樹

青森

綾繁

鳥山

浅方

佐知雄

水戸

駿府

館山

青森

高行

豊持

米積

駒主

真枝

喜可寿

館林

白井

純繩

伊丸

夏月

月うまれが世のまじりてふれぬるをやまの影とていふぬ虫
 名なきなにも朽ちや化しつらんひとくそよ形みおその影を
 追うけくもつとえに影のふたをこのめるを待とう耶
 月あや朽ちかりんぬきまの雲を照せるはわりの糸
 波那細夕月さへ深の時をどうへくあるある萩の月此涼と
 裏微加花三
 え飲のもれあのかきこひの影の影ちひきの萩月
 村中くのちバあつーと月影ものぞきて出るやふとのた
 夕月これくらぬきも残してぬれにやある月ハ出よう
 目妙交の影をうつるとのうけ引く月のいるれも矢のどくゆく
 萩あはせうとられてまきれん月と秋しくあくる横重
 院重くの影をぬきく夕風をねよくける月を涼き
 ねみの月ハこころはあつてばうくくあるやうは涼や
 まの月うまゆ七海を照しせよとやうおはそこららの宿

播磨明石

山住
 甲斐谷村
 真秋
 安房館山
 水戸
 唐指
 道連
 四下
 千臣
 若見津和野
 友無
 桑折
 草丈
 安房伊戸
 堤
 諺方
 全
 巢垣
 好
 大和利庄
 仕虎

常夏
夏草花

鶉川

蚊遣火

照射
蟬

蓮
夕顔

扇

氷室
夕立

裏微

目妙

涼さふらふら夏の暮れ月をむとあふなりけり
夏の暮れ月のまき人の中へ寝ぐさてえうくなり

鳴音
栗橋
百世

裏微

目妙

夏草のまきけの月をふれがさうけゆく後夜の花
まき花うさぎのけうけつ枝枝はあふる床夏

熊子
真村
全

裏微

目妙

思ひききも夜にば涙のせうまたあふる河骨
おもひかたむきしおのふらけはまきあふるあけの雲

猿人

裏微

目妙

棲るはれ物あのかうけくともあふるむの夜
せうあふ物とあふはきされて夕餉うさくあふる

英賀
綾羽
水盛

裏微

目妙

罪なりとあふむれどもあふる男あふるつる麻あふる
けいあふのけいあふを侍従くともあふるあふる

真枝
柿人
甲府

裏微

目妙

八橋のむきとあふるあふるあふるあふるあふる
あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる

東

裏微

目妙

あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる
あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる

真鶴
仙臺
御代風

裏微

目妙

あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる
あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる

千顔
比文

裏微

目妙

あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる
あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる

花根
高畑

裏微

目妙

あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる
あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる

照末
佐渡相川
三橋法師

裏微

目妙

あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる
あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる

橋守
三河吉田
飛登本

裏微

基家
川俣
為俊

岩城蓮阿
 御園友足
 式部躬
 村松伏
 佐原厚
 尾張和歌雄
 種一宮
 關友施丸
 真臺根
 石城長人
 新庄繁
 水繁道雄
 技重樹
 繁喜
 仙沼
 懸水

[illegible]

長門山越 金文

目妙
をたうあつとまゝうんまぐとくるは汗の痕も
波那細
路ありてゆく松風を琴の音よりかへしとぞ母よ泣かせ
裏微
夕風の損どくさる涙しなほ男の情あるこそを忘れ

高濱 諫方 長門 山 金 采折
鈴 越 文
名

あつても門の柳の下のもゝりて同じ月の涼し
 涼しとるもさうづつとまのがりもあるあつたや度にははれ
 吹風は涼しの時空の遠くにある此涼するもの萩の月
 沈みよむると川に蒲刈ろふぬくも揺よりありぞ涼き
 糸絨とまぐつのあひ撫を月吹わけくるも涼しと
 ゑいささうして懐かしくゆく夏をむのとど建てるほどの
 柳の風のわらうとありやうは仲のよくある庭の涼しと
 とくあらね暑さ凌のりそやとまよふせをとくむ利水
 ちがふむとけ拂ふわたれ庭よりそくあ暑さを残しとるれ

目如飛二
 夕月よ吹流お汗のまぬぐひをあつこの途る涼とやえん
 目如
 涼へもさな涼し川端よささうのものさ暑かりとる

筑前福岡
 吉原
 素原
 関
 関
 景川
 萬
 興
 武
 松
 山形
 京
 知
 柳
 雄
 秀
 光
 住
 象
 起
 守
 顔
 廣
 五
 百
 丸

[illegible]

路行 前福園 友得 妻今井 丘守 房小町 面月 元俊 教實 文秀 立間 幸風 常子 麟馬 名古屋 鬼影 松俊 大田原 繁樹 春好

三十一

烟

まるく川にうつろひてゐた。また、まゝとがを境とせり。あつた人形
 裏微 夕月のまゝやまは、とてふ。さうして、さうして、さうして、さうして、
 目妙 湧か滅のまゝやまは、とてふ。さうして、さうして、さうして、さうして、
 りきまは、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 お里ハ、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 目妙 知花のまゝやまは、とてふ。さうして、さうして、さうして、さうして、
 さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 裏微 加花二 日のまゝやまは、とてふ。さうして、さうして、さうして、さうして、
 裏微 雷のまゝやまは、とてふ。さうして、さうして、さうして、さうして、
 目妙 湧か滅のまゝやまは、とてふ。さうして、さうして、さうして、さうして、
 久しおと、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 偽は、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 目妙 西月、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 出づる末のまゝやまは、とてふ。さうして、さうして、さうして、さうして、

板貫
 氣仙沼
 安房館山
 白川
 長崎
 赤沼
 吉原
 素原
 岩城
 桑折
 桑名
 真芳
 真氏
 庄内
 壺成

泉

姬路

行

筑前

甲

五

安房

面

水

改

事

筌

寺

六

當

半

名古

卷一

10

3

1

2

大田

5

歌

歌

金 真 水 真 青 色 成 岩 城 也 佐 倉 和 美 種 袖 古 山 景 安 人 女 縫 真 風 清 心 松 代 宝 馬 木 女

金 真 水 真 青 色 成 岩 城 也 佐 倉 和 美 種 袖 古 山 景 安 人 女 縫 真 風 清 心 松 代 宝 馬 木 女

女郎花

薄

蘭

朝顔

久 真 水 仁 熊 相 真 波 一 榮 斧 諷 月 好 人 長 喜 代 住 持 砂 雄 成 松 俊

久 真 水 仁 熊 相 真 波 一 榮 斧 諷 月 好 人 長 喜 代 住 持 砂 雄 成 松 俊

萩

萩

さうき萩を萩萩り萩のあけゆく萩うさかん

真金

ふまよふ二つの萩れれ萩り萩と萩色の時と時うん

真青躬

ちれと萩萩の糸うさぎ萩あさるうさぎ星のまゆは

色成

あさとの萩萩あれと萩萩の葉は萩やつけくまゆん

岩城 峯也

星命さやめ男のうさぎ萩はつと萩も重くと萩一

佐倉 和 摺

神つばの萩うさぎうさぎ萩はつと萩も重くと萩一

美種

萩と書ふ字は萩れは遠きさううさぎなる萩のうん

大田原 袖古

萩の萩はなる萩あさるうさぎと萩うさぎと萩うさぎ

景山

萩の萩はなる萩あさるうさぎと萩うさぎと萩うさぎ

二本松 安人

萩の萩はなる萩あさるうさぎと萩うさぎと萩うさぎ

縫女

萩の萩はなる萩あさるうさぎと萩うさぎと萩うさぎ

真風

萩の萩はなる萩あさるうさぎと萩うさぎと萩うさぎ

清正

萩の萩はなる萩あさるうさぎと萩うさぎと萩うさぎ

宝馬

萩の萩はなる萩あさるうさぎと萩うさぎと萩うさぎ

木の子

鹿

鹿

鹿

目妙 小野言 金厚

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

此の鹿の中へいづれかをつきとて鹿をうめりて

秋夕

秋妻

秋田

小野言 金厚

京都 柳

高濱 行

五百丸

方住

真枝

弘道

真歌

振春

道雄

群住

松香

菊友

跡人

風成

真永

柿人

磯名

近道

春好

宋積

夏海

梧枝

花人

友雄改

真鶴

烏山友近
小野宮金厚

潮來元
廣洲俊

水戸 高畑 富津 千代丸 雛子 諏方 真池 仙臺 近道 盛道 水戸 比羅久 貞俊 一岡 往安 梁折 金文 長門萩 越山 尾張津島 祭 因幡鳥取 真靜

桑柘長真葉真松代青浦箭橋岡陸輿郡山天神林香真熊大空
棚人秋並弓繁風晴鳥居村酒成締

飄 常 直 三 植 弘 雪 雪 濱 真 鈴 真 春 新
 芭 文 道 羽 不 器 丸 邨 俊 牛 名 滿 則 庄
 名 古 屋 佐 全 庄 全 方 新 春 新
 樓 磨 廣 茂 植 弘 雪 雪 濱 真 鈴 真 春 新
 名 古 屋 佐 全 庄 全 方 新 春 新

名所月

十三夜

雁

尾佐九
佐原
立花
仙臺
白川
春彦

村松
厚房
佐倉
加保留

駿府
和
喜可壽

不_二の後_一はかきく花_二る_一唐_一の八_一庵_一は書_二文字_一ともも

風の林_二せあら_一る_一葉_二れ_一葉_二ま_一月_一の影_二を_一落_二る_一かり_一う_一の

ては川_一まやゆんと照_二月_一乃_一影_二入_一る_一梯_二の_一かり_一う_一の

不二の_一と斜_二は_一唐_一の花_二つ_一ハ_一庵_一はかき_一影_二を_一そ_一る_一

少_一影_二が_一影_二は_一影_二かり_一と_一の_一より_一唐_一に_一唐_一の_一影_二を_一

目_一知_二れ_一て_一唐_一の_一入_二る_一唐_一の_一影_二を_一そ_一る_一

あり_一唐_一の_一影_二を_一そ_一る_一唐_一の_一影_二を_一そ_一る_一

秋_一の_一影_二を_一そ_一る_一唐_一の_一影_二を_一そ_一る_一

立_一影_二は_一影_二かり_一と_一の_一より_一唐_一に_一唐_一の_一影_二を_一

目_一知_二れ_一て_一唐_一の_一入_二る_一唐_一の_一影_二を_一そ_一る_一

後_一の_一影_二を_一そ_一る_一唐_一の_一影_二を_一そ_一る_一

真_一風

霧

持衣

鳴

重刊

三上

九月尽

黑羽 酒 人
巖上 央
山目 栗 駒
水戸 浦 風
信濃 歌 友
一 友
真 葛
奧 成
皮 安
高 行
佐貫八幡 真 船
松代 三布 祢
氣仙沼 百 好
安房館山 堤

秋山家

角力

秋田
秋田

初冬

冬

味之 眞通 吞根 底成 奧成 眞醒 幹長 東 槌丸 持主 眞氏 眞芳 橋住

時雨

目
ひくのちごうなうをころもつけをさまたねるを八事より

[illegible]

裏敬
のそきくちるゆふはつまづきえけ一材よりなりとぞ

目抄加花一

目録
一、序文
二、第一章
三、第二章
四、第三章
五、第四章
六、第五章
七、第六章
八、第七章
九、第八章
十、第九章
十一、第十章
十二、第十一章
十三、第十二章
十四、第十三章
十五、第十四章
十六、第十五章
十七、第十六章
十八、第十七章
十九、第十八章
二十、第十九章
二十一、第二十章
二十二、第二十一章
二十三、第二十二章
二十四、第二十三章
二十五、第二十四章
二十六、第二十五章
二十七、第二十六章
二十八、第二十七章
二十九、第二十八章
三十、第二十九章
三十一、第三十章
三十二、第三十一章
三十三、第三十二章
三十四、第三十三章
三十五、第三十四章
三十六、第三十五章
三十七、第三十六章
三十八、第三十七章
三十九、第三十八章
四十、第三十九章
四十一、第四十章
四十二、第四十一章
四十三、第四十二章
四十四、第四十三章
四十五、第四十四章
四十六、第四十五章
四十七、第四十六章
四十八、第四十七章
四十九、第四十八章
五十、第四十九章
五十一、第五十章
五十二、第五十一章
五十三、第五十二章
五十四、第五十三章
五十五、第五十四章
五十六、第五十五章
五十七、第五十六章
五十八、第五十七章
五十九、第五十八章
六十、第五十九章
六十一、第六十章
六十二、第六十一章
六十三、第六十二章
六十四、第六十三章
六十五、第六十四章
六十六、第六十五章
六十七、第六十六章
六十八、第六十七章
六十九、第六十八章
七十、第六十九章
七十一、第七十章
七十二、第七十一章
七十三、第七十二章
七十四、第七十三章
七十五、第七十四章
七十六、第七十五章
七十七、第七十六章
七十八、第七十七章
七十九、第七十八章
八十、第七十九章
八十一、第八十章
八十二、第八十一章
八十三、第八十二章
八十四、第八十三章
八十五、第八十四章
八十六、第八十五章
八十七、第八十六章
八十八、第八十七章
八十九、第八十八章
九十、第八十九章
九十一、第九十章
九十二、第九十一章
九十三、第九十二章
九十四、第九十三章
九十五、第九十四章
九十六、第九十五章
九十七、第九十六章
九十八、第九十七章
九十九、第九十八章
一百、第九十九章
一百零一、第一百章

波那細

粟作カ行三
 又のまうへハ船とある時を車中ハ風の来を乃

あふりしきとてよれはあふりしきとてよれは

はつくと落る木の葉を徳澤を柳の枝も様にならん

子子

柳の女より思ふをいへるあゆとんれが栗乃下

意先人の集りゆきとて

萬葉集卷之六

あふちのちゅうの中ようくちやあぐれもあぐね

抄本を以て略と祇名と行名の局は悉く其の裏徴

目録並
朝の光く垣根は妙の雲の夢もやそり一時

[illegible]

引張り引張るゝの度とけをいふ道乃程を

裏微加花三

This image shows a vertical strip of a manuscript page, likely a flyleaf or endpaper. The paper is a light beige or cream color, showing signs of age and wear. Along the right edge, there are faint, repeating decorative patterns, possibly from a border or a series of small illustrations. The patterns appear to be stylized floral or foliate motifs. The overall texture of the paper is slightly grainy, and there are some minor discolorations and small dark spots scattered across the surface.

落葉

上總小祭

由

中

方真

為保

真真

真

佐
之原村

律



葉

光明

復

美

千

甲斐市
常

水戸真

拒模碇
尾

莫

兼

兼

霜

米

裏微如花三

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目積

真久

有明

常島

男也

諸實

壽應

真垣

音繁

於鬼門

千穎

信濃

事富貴

千賀江

敦賀

文秀

枝成

柔御

真名井

袖古

健雄

全

安道

水戸

窪田

白川

長成

望同

春長

下蔭

空

裏微如花三

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

目如如花

雪丸
 千臣
 芳野
 花守
 丹波後部
 綾鳥
 播磨明石
 水戸
 芳野
 葉並
 芳磨
 駿府
 貞
 高演
 真史
 糸光
 奥米谷
 光良
 花人

村松
 山文
 笠間
 榮成
 全
 仲芳
 柔
 唐文
 全
 金文
 水戸
 唐指
 花頼
 鹿橋
 露
 空見
 御
 友足
 芥見
 甲斐友村
 文彦
 全三
 長俊
 市川
 真河

少きとせしけし一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

戀の部

恋

無詞恋

初、

言出、

難言出、

忍、

見、

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

小

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

一

玉樹

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

持主

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

上

水養

波那細

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

一

春秋

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

大

御風

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

一

真垣

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

上

長道

通書、

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

石

綱

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

直

成

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

目妙

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

見書、

被返書、

祈、

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

裏微

一物とてふはさうにあらはれぬ跡人

長

成

直

古

誓、
憑媒、

逢不遇、
不逢、

空帰、
待、

裏微

目妙
おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

上越富津

瀑布

裏微

目妙
おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

大坂

栗三

彼那細

おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

富津

有安

裏微如花二

おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

駿府

益人

裏微

おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

岩城

長人

四十二

目妙

おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

庄内

喜丸

裏微

おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

新庄

守色

裏微

おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

伊勢

方住

裏微

おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

仙臺

平樹

目妙

おぼろのうきをうきあはせうきとけしき風を引ぞうき

素原

長道

鶯歌

光記

長

意涙

恋瘦
恋仰

恋文

恋帯

恋枕

手枕

恋色

恋使

恋奴

波那細擧過愛

いふえよふとつとを待つとく種を後の世となりと

わあ時のうとく一後ハまゐれてのつてはせん様とあらうし

目妙 社何れに後ハ後のうとくれあふとあらうとあらうとあらうと

裏微如花三 思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

波那細 思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

思ふも人目とへばやせとせとせとせとせとせとせとせと

空寐

完人

石生

石生

石生

石生

石生

石生

石生

石生

石生

石生

石生

寄風恋

山、

川、

滝、

石、

田、

草、

目妙

あはせはあはの奴もあはせんといひんあはとあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

あはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴もあはの奴も

小糸

喜可寿

田鶴音

高知

津房

福岡

安房小町

琴富貴

犬山

葉丸

駿河吉原

筑前博多

長門萩

鳥取

長道

真満

斗神

村上

松代

親和

空観

隅成

高直

石生

石生

石生

石生

石生

常府 一之 高彦

初見 妙如花 一 和歌雄

裏微 妙如花 二 茂里

波那細 唐 妙如花 三 大関

裏微 妙如花 四 萬象

目妙 妙如花 五 諏方

裏微 妙如花 六 佐原

目妙 妙如花 七 雪邨

裏微 妙如花 八 真名井

目妙 妙如花 九 鹿島湯

裏微 妙如花 十 氣仙沼

目妙 妙如花 十一 神代

裏微 妙如花 十二 空言

目妙 妙如花 十三 歌丸

裏微 妙如花 十四 真風

目妙 妙如花 十五 盛岡

裏微 妙如花 十六 森蔭

目妙 妙如花 十七 川越

裏微 妙如花 十八 高濑

目妙 妙如花 十九 徳人

常府

一之

高彦

和歌雄

茂里

大関

萬象

諏方

佐原

雪邨

真名井

鹿島湯

氣仙沼

神代

空言

歌丸

真風

盛岡

森蔭

川越

高彦

和歌雄

茂里

大関

萬象

諏方

佐原

雪邨

真名井

鹿島湯

氣仙沼

神代

空言

歌丸

真風

盛岡

森蔭

川越

高濑

徳人

浦湖國都里閑居旅

山家

後編

軒

長
小門
河

栗橋友足

循

浦鶴

尺有所短
寸有所長

鳩

烏

狸

猪

蜘蛛

鱸

我柄

龜

酒

酒宴

食類

盃

武具

琴

鐘

書

櫛

目妙

年ほごの海といふくちも鶴の足やあらうらん

片倉川常

東徴

もをきつもの海のもあつたり磯くわくはえたり

伊勢津山積園

目妙

和歌の浦の干潟なる鶴の肩を波にたきなり夕風

常道

東徴

あきしめは鶴をさまたけしはきしめは芦田鶴はく

栗橋

目妙

今も鶴田のつるのありけりこいと鶴の啼れ

駿府直古

東徴

あやうなるや狸の振つて人のあききこつてさうせ

親寛

東徴

むくつけき力をあせとあひさそと砂粒を麻はまゐるを

歌志丸

目妙

さかあはれを海にすむ狸も又やうりききききききき

赤音好

東徴

鹽よりきききききききききききききききききき

登遊

東徴

あはれと狸がききききききききききききききき

水枝

目妙

石代の歌とあはれききききききききききききき

基家

東徴

わのまはあききききききききききききききき

奥成

目妙

あはれききききききききききききききききき

歌道

東徴

つれづれのききききききききききききききき

桐生白記

東徴

あはれききききききききききききききききき

桑名真氏

東徴

あはれききききききききききききききききき

鳴音

東徴

あはれききききききききききききききききき

新庄真樹

目妙

あはれききききききききききききききききき

國住

東徴

あはれききききききききききききききききき

多藝雄

東徴

あはれききききききききききききききききき

新庄真栄

東徴

あはれききききききききききききききききき

弘器

目妙
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
名古屋 貞就

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
益上 益筆

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
米守

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
水技

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
花満

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
材人

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
米年

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
正義

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
十秀

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
磯名

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
真澄

東微
双ふれふもあけしにあらはる目もまじりて人の目もまじり
無得

雙六

器財

網

石

黄金

舟

筏

苔

海眺望

眺望

浦眺望

殺風景

士

舟人

蜚

王昭君

女

遊女

寄妻子
思親恩

子

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
身延 長房

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
基家

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
磯名

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
暖丸

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
麟馬

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
春好

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
朱也

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
唐曆

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
長振

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
真友

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
技成

東微
ふる紙もまじりては紙をさげしや竹とあはれん
真春

祝

御代長
印西
明之
衆所見
全金文
誦方真
玉
千尺
春秋
琴葉
道足
萬佗伎
弘道
長道
空風
滋美

立抹

水

美

空
風

長道

弘道

府石

方定友

道

琴瑟

春秋

千尺

真至

金文

見詰

永明
之

西 街代長

其臺

松

柳

文

山花

雉子

১৩

ト
七
四
恨
と

喜多惠

喜多惠

藤子規 螢 夕立 初燂 稻妻 秋與 月 虫 柳 霰 雪 埋火 意

[illegible]

神祇 老人 舩 滝 嵐

桑一とくもさるゝもあま乃程とあり多人のよきそ
 種也ーとて庚戌とてふむみのんれうちのめつらうーと
 秋のねをめぐも思ふあふ時ハ方なくよりうーとるもけ
 おれてハふきあふもあふの里あつと人といへてぞなく
 悪ゆあはぬものうーと六のおれまりあとかふあやもあれ
 もあふもさるゝ比廠のあ風なひも殿の浪々あふ令ーと
 雲いとの院此ふああち着すては後ぞや宋なりとと
 月のせとさるれこのれが国南ともさげ船もさるわ三月月
 三三と二三枚屏風ハむの撫もとー延きバあきうりうる
 裏微
 矢玉のふもあふるあふあやたうらがあふ神のをせと

全 全 全 全 全 外 全 全 全
 素山子 居並 寿應 頼風 香保留 好成 蘭成

佛所教の業まなうなりと

よろづへきうへんく

狂歌堂真類

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Handwritten text on the right side of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines.

Handwritten text at the bottom of the right page.





